

つ・な・が・る

Tsu-na-ga-ru

7

月号

2024
July
No.18



SPECIAL REPORT

中目新聞「リンク」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

地域から信頼され、 選ばれる病院をめざして。

DPC特定病院群認定特集

CONTENTS

- 1 地域医療を知ろう①
- 2 地域医療を知ろう②
- 3 HOSPITAL NEWS

院長メッセージ

当院は令和6(2024)年度診療報酬改定において、厚生労働省からDPC特定病院群(大学病院本院に準ずる機能を有する病院)の指定を受けました。今回の特集では、DPC特定病院群の役割や、認定を機にさらなる医療のレベルアップをめざす当院のビジョンについてお話ししています。ぜひご一読ください。

SPECIAL REPORT

地域から信頼され、 選ばれる病院をめざして。

DPC特定病院群認定特集

小林靖院長に聞く、DPC特定病院群の
認定と、これからの病院運営。

CHAPTER 01

高度な診療機能が評価され DPC特定病院群に認定。

—DPC特定病院群について教えてください。

小林 DPC特定病院群は、大学病院本院並みの高度な医療を提供している病院を示すものです(詳しくはコラム参照)。当院は令和6(2024)年度診療報酬改定において厚生労働省からDPC特定病院群の指定を受けました。

—今回の認定について、どのように受け止めていらっしゃいますか。

小林 やはりこの地域の基幹病院として診療の拡充に取り組み、オールラウンドの診療機能を備えてきたことが公的に認められたものと、うれしく思っています。たとえば、昔から培ってきた当院の強みは心・血管系疾患を中心とした診療ですが、この領域についても、時代とともに診療体制を拡大してきました。現在は虚血性疾患に加え、不整脈や心臓弁膜症の治療も積極的に推進。ハイブリッド手術室では、心臓血管外科、循環器内科、放射線科、麻酔科が連携し、複数の治療手技を組み合わせるハイブリッド治療に取り組んでいます。

—そのほかに大きく広げてきた診療分野はありますか。

小林 たとえば、がん診療についても、愛知県がんセンター愛知病院と統合してから、より一層診療体制を充実させてきました。現在は診断、手術、薬物治療、放射線治療、

がんサポートの各部門から構成されるがんセンターを開設し、高度な医療と手厚いケアにより、難易度の高い手術からその後の継続治療まですべてを担っています。そのほか、股関節や脊椎などの運動器疾患についても最新の知見を取り入れ、高度な治療を推進しています。昨年、人工関節手術支援ロボットを導入を決定し、8月には、最先端のロボット治療を開始する予定です。このように幅広い診療領域において、高度な急性期医療を提供すると同時に、当院は第3次救急医療機関の役割も果たしています。一刻を争う緊急の疾患を受け入れ、適切な医療を提供するとともに、地域の医療機関と連携して継続してサポートしていく。高度医療と救急医療、そして地域医療支援の3つの柱で、基幹病院としての実力が評価されたものと自負しています。

COLUMN

●DPC特定病院群とは、大学病院本院に準じた「診療密度」「医師研修の実施」「高度な医療技術の実施」「重症患者に対する診療の実施」機能を有するとして、厚生労働省が指定する医療機関群。

●2024年6月1日時点見込みでDPC対象病院は全国に1786施設。このうちDPC特定病院群は178施設のみで、地域の中核病院として、より高度で質の高い医療を提供することが期待されている。



CHAPTER 02

DPC特定病院群として さらなるレベルアップを。

— 今回の認定を機に、病院全体として、今後どんな医療をめざしていくお考えですか。

小林 DPC対象病院には、医療の透明化、医療の質の向上、医療の効率化、標準化という4つの項目の追求が求められています。その原点に立ち返り、それぞれの項目でワンランク上をめざしていこうと考えています。

— 具体的な計画を教えてください。

小林 医療の透明化では、患者参加型医療をめざしていきます。本来、医師と患者さんは対等な立場ですから、もつと患者さんに参加していただきたいと考えています。そのため患者サポートセンターも開設し、患者さん一人ひとりに寄り添う体制を強化していきます。医療の質の向上では、今年度より医療安全推進センターを開設し、感染対策も含めて医療安全に精力的に活動していきます。医療の効率化では、従来の業務を見直し、改善すべきところはどんどん改善していきます。

そのため、外部の調査機関に日常看護業務などの解析も依頼していく計画です。

— 4つめの医療の標準化についてはどのようなお考えですか。

小林 診療ガイドラインに沿った標準的な治療は当然で、もう一步視線を広げて、地域全体で標準的な治療をめざしていきたいと考えています。たとえば、大腿骨頭部骨折や脳卒中で行っている地域連携パス（※）の運営にも力を注いでいます。また、医薬品についても地域内の標準化を進め、どの医療機関でも同じ薬が処方されるような体制づくりをめざしていきます。

— なるほど、多様な側面でレベルアップが期待できそうです。

小林 はい。今後ともこの地域の医療を支える基幹病院としての責務をしっかりと果たし、地域の皆さまから信頼され選ばれるエクセレント・ホスピタルという当院のビジョンを実現していきたいと思っています。

※地域の医療・介護に関わる人が連携し、同じ治療計画に沿って継続的に診療を行うための仕組み。

BACKSTAGE

DPC特定病院群の係数を 病院の成長に活かす。

●DPC対象病院になるメリットの一つは、病院の実力が可視化されることである。診療実績などさまざまなポイントが機能評価係数で細かく評価されるので、DPC特定病院群の中でも、どの施設が高みをめざして質の高い診療に取り組んでいるか、明らかになる。

●岡崎市民病院は、DPCの機能評価係数を分析することで自分たちの医療体制を客観的に見直し、よりハイレベルな病院への飛躍をめざしている。



地域医療を知ろう

1

今回のテーマ

PFM（ペーシエント・フロー・マネジメント）

PFMは、入院患者さんの情報を早く把握し、退院後までサポートする仕組みです。

入院患者さんの支援に 欠かせないPFM。

PFMとは「ペーシエント・フロー・マネジメント」の略で、患者さん（ペーシエント）が外来を受診し、入院、退院して在宅療養するまでの流れ（フロー）を途切れなくサポートするための仕組みです。

まず入院前に、患者さん一人ひとりの身体的、社会的、精神的背景を把握し、その情報に基づいて、入院中から退院後まで一貫した支援を提供していきます。特に、高齢の一人暮らしの患者さんの場合、退院後も安心して暮らせるように事前に問題点を把握し、早期に対策を講じます。

このように患者さんをさまざまな角度から支援するために、PFMでは、院内の連携はもちろん、地域の医療機関や訪問看護ステーション、介護サービス事業所などさまざまな専門職と緊密に連携していくことが重要なポイントになります。



PFMによって医療の質の 向上とともに患者さんの 満足度の向上をめざす。

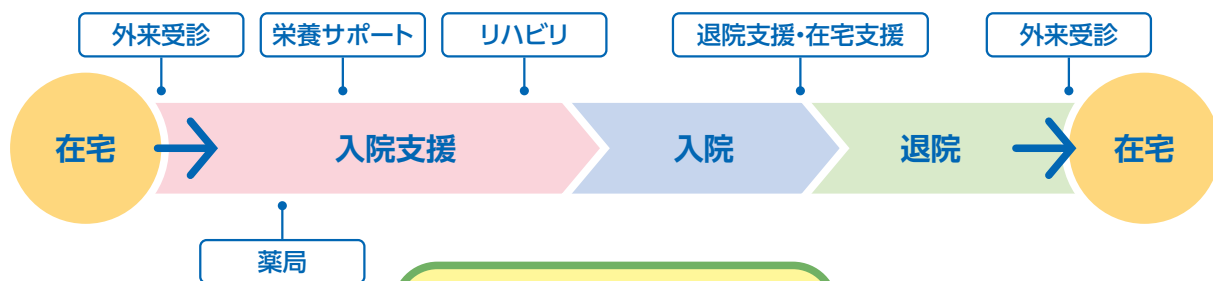
PFMの導入により、病院運営では外来の医師・看護師の負担軽減や入院期間の短縮、病床稼働率の上昇などの効果が得られます。患者さんにとっては、医療の安全性が高まり、安心、満足して入院できる環境が整います。

たとえば、病棟では、患者さんの情報を事前に把握することで、安全性に配慮した療養環境を準備することができます。また、手術前の体調管理により、合併症を予防し、早期回復が期待できます。さらに、治療費や福祉制度、退院後の生活についても事前に説明できるため、患者さんやご家族の不安をできるだけ軽減し、退院後の生活計画を早期に検討できます。岡崎市民病院ではPFMを導入することで、こうしたさまざまなメリットを得て、医療の質の向上や患者さんの満足度の向上をめざしています。



Column

PFMの主な流れ



切れ目のない医療を提供

プラス
α

上手な医療のかかり方① 気軽に相談できるかかりつけ医を持ちましょう。

地域医療を知ろう

今回のテーマ

患者サポートセンター

患者さんに安心して通院・入院していただくための、
患者サポートセンターが動き出しました。

PFMを軸に設計された 患者サポートセンター。

岡崎市民病院ではPFMの手法を取り入れ、患者満足度と医療の質向上をめざすため、相談部門の強化に取り組んできました。2020年に入院支援部門を立ち上げ、入院から退院まで一貫して支援する体制を整えました。また、患者さんの相談内容やご意見を多職種で検討する部署も設置し、満足度向上に努めてきました。2022年には、これらの取り組みを集約するワーキンググループを発足させ、約2年間の準備期間を経て、今夏に患者サポートセンターが本格的に稼働します。

当センターでは、通院・入院患者さんの相談に一括して対応し、入院・退院支援、受診先相談、医療福祉制度の利用相談、診療科間の受診予約や検査予約などを一カ所で提供します。これにより、患者さんの利便性が大幅に向上します。



多職種が緊密に連携し 患者さんを総合的に支援。

当院の患者サポートセンターは、「患者相談係」「入退院支援係」「調整係」の三つの機能を持ちます。

「患者相談係」は、社会福祉士が行う医療福祉相談と看護師が行う受診相談を担当し、他科受診の診察・検査予約をサポートします。また、認知症疾患医療センターやがん相談支援センターも設置されています。「入退院支援係」は看護師と社会福祉士が中心となり、入院前に患者さんやご家族の情報を把握し、問題点を解決。患者さんの入院、早期退院についてもしっかりサポートします。「調整係」は院内各部署や院外関係機関との連絡窓口を担当します。

これらの機能が一つに集約されており、薬剤師、理学療法士、作業療法士、歯科衛生士、管理栄養士など多職種が連携して患者さんの相談に迅速に対応します。



Doctor's message



患者サポートセンター長
副院長兼務
医局病理診断科統括部長兼務
長井典子

患者サポートセンターは、患者さんのための「なんでも相談窓口」です。

これまでも当院には、入退院支援室や医療相談室、病診連携室などがありましたが、それぞれが別々の場所にあつてご不便をかけていました。そこで、たとえば市役所の窓口のように、わかりやすい場所に、なんでも相談できる窓口をつくりたいと考えたのが、患者サポートセンターです。来院してすぐに立ち寄れるよう、1階正面

玄関入ってすぐ右手にコーナーを開設。担当の職員が窓口で対応し、必要に応じてプライバシーに配慮した個室へご案内しますから、どんなことでもお気軽にご相談いただけます。

また、ここでは、患者さんのご意見なども積極的に伺う方針です。患者さんの気持ちと職員側の意向を両方把握し、お互いのずれを埋めることで、患者さんの満足度をより一層高めていきたいと考えています。

健康イベント『岡崎まちの保健室』を開催。

令和6年5月12日(日)、岡崎城二の丸広場で『岡崎まちの保健室』が開催されました。このイベントは『看護の日』にちなみ、市民の皆さんの健康理解を深める目的で企画しました。当院の専門看護師や認定看護師が健康相談や血圧・血糖測定、握力チェック、ハンドマッサージ、胎児の重さ体験、噛む力測定などを行い、市民の皆さんと交流しました。特別企画としてグレート家康公「葵」武将隊とのコラボもあり、AEDの使い方や認知症予防エクササイズを紹介し、楽しい一日となりました。今後も健康の重要性を伝えるイベントを続けていきます。



集中治療領域2人目の〈特定行為看護師〉誕生。

特定行為看護師は、研修で習得した高度な知識と技術を用いて、医師が作成した手順書に従い診療の補助を行います。特定の行為を医師の指示を待たずにタイムリーに患者さんに提供することによって、患者さんの症状の回復が期待できます。

この度、当院の集中治療センター所属の野中恵子看護師が、10区分・24行為の研修を修了し、特定行為看護師として活動を開始しました。これにより、重篤な患者さんが入院する集中治療センターでは、より迅速な医療提供が実現します。「研修を通じて医学的、看護的視点から患者さんに寄り添えるようになりました。患者さんの早期回復への貢献とともに、最適なケアをチームで考え続けたい」と野中看護師。当院は、より医療サービスの質を高めるため、特定行為看護師の育成を進めていきます。

野中看護師が修了した特定行為区分
(集中治療領域10区分・24行為)

- ① 呼吸器(気道確保に係るもの)関連
- ② 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連
- ③ 循環器関連
- ④ 栄養に係るカテーテル管理
(中心静脈カテーテル管理)関連
- ⑤ 動脈血液ガス分析関連
- ⑥ 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- ⑦ 血糖コントロールに係る薬剤投与関連
- ⑧ 術後疼痛管理関連
- ⑨ 循環動態に係る薬剤投与関連
- ⑩ 精神及び神経症状に係る
薬剤投与関連

集中治療センター 野中恵子



20分で聞けちゃう! 旬の健康情報

エフエムEGAO「イブニングワイド」で
当院の医療スタッフが健康情報を発信!

「いまどき旬」コーナー 18:00~

- 暑い夏を乗り切ろう!
7月18日(木) ~熱中症対策~
救急看護認定看護師 郡山明美
- 夏に多い子供の皮膚疾患
8月8日(木) 皮膚科 統括部長 西原春奈
- 認知症かもしれないけれど、
9月19日(木) みんないい人たちがかり
認知症看護認定看護師 太田英征



エフエム
EGAO
(76.3MHz)



これまでの
放送内容は
こちらから!



岡崎市民病院
公式ホームページ



Instagram



@okazaki.hp



X (旧Twitter)



@okazaki_hp



YouTube



岡崎市民病院

検索

岡崎市民病院
OKAZAKI CITY HOSPITAL

〒444-8553 岡崎市高隆寺町字五所合3番地1
TEL 0564-21-8111 <https://www.okazakihospital.jp/>

つながる
Tsu-na-ga-ru

2024
No.18 7月号

発行責任者/院長 小林 靖 発行/岡崎市民病院 広報戦略チーム
記事提供/中日新聞広告局 編集協力/プロジェクトリンク事務局 発行/2024年7月